

恋愛対象に求める条件とは -学生を対象としたアンケート調査より-

五十嵐 瑠李

1. はじめに

日本では近年、未婚率が上昇している。内閣府[1]によると、1985年に未婚の女性は49.2%だったが、2020年では77.5%に増加している。男性も同様に、未婚率は1985年の37.9%から2020年には55.2%に上昇している。内閣府[2]によると、結婚できない理由として「適当な相手にめぐり合わないから」という回答が最も多い。

未婚率の上昇において、適当な相手に出会えないことが重要な要因になっていると考えられるが、「適当な相手」とはどのような相手なのか。また、なぜ適当な相手と出会うことができないのだろうか。

1.1 先行研究

適当な相手とはどのようなものなのか、適当な相手にめぐり会うのはどのような人なのかに関して、いくつかの研究がある。

1.1.1 適当な相手にめぐり会うかどうかについて

西村[3]は、適当な相手にめぐり合わないとは、「相手を探しているがめぐり合わない」のか「恋愛活動を何もしていないため、めぐり合わない」のかをリスク選好や時間割引率など経済学の観点を変えて検証した。アンケート調査の結果から、①男性よりも女性の方が出会いに困難を感じている、②コミュニケーション能力の不足が出会いを困難にしている、③恋愛活動を何もしていない人で「ある年齢がきたら結婚するつもり」と回答した人は適当な相手にめぐり会えない確率が低い、④リスク愛好家は、適当な相手にめぐり会えない確率が低い、といったことが分かった。

1.1.2 適当な相手について

疋田[4]は、鹿児島大学の学生(男女)と鹿児島県立短期大学の学生(女性)を対象に、恋愛観・結婚観について調査を行った。付き合う場合に優先する条件として、男性は1位が「性格」、2位が「容姿」、3位が「価値観」となった。女性では1位「性格」、2位「価値観」、3位「容姿」の順であった。優先する要素について、性別による大きな違いは見られなかった。

1.2 研究目的および新規性

疋田[4]は、鹿児島県の学生を対象に調査を行っている。地域によって歴史や文化が異なり、その土地に住む人ならではの価値観や考え方がある。ソニー生命保険株式会社[5]によると、交際相手に尽くすタイプとして鹿児島県の女性が挙げられている。英雄

である西郷隆盛が男の中の男として鹿児島県の男性の憧れの対象になっており、男性は自分の役割をしっかりと果たす実行力がある人が多いため、女性は男性を黙って支え尽くす人が多いという。このように、地域によって恋愛対象に求める条件は異なることが考えられる。

また、疋田[4]は、15年前の研究であり、データが古いことが懸念させる。当時と比べ、現在はスマートフォンやSNSの普及が進み情報の発信や収集が簡単になった。誰もが情報を発信することができ知らない人と交流する機会が増え、個人の嗜好や出会いの方法も多様化が進んだと考えられる。また、経済環境も変化し、特に昨今は物価の上昇が顕著である。生活していく上でより多くのお金が必要になっていることから、経済力を交際相手に求める人が増加している可能性も考えられる。15年前と比べて交際相手や結婚相手に求める条件は変化しているのではないか。

加えて、筆者の知る限り、経済的選好の観点から適当な相手にめぐり会うかを研究したものは西村[3]以外にない。そのため、さらなる実証研究の積み重ねが必要である。

以上のことから、現在の若者について、理想の相手とはどのような相手か、個人や地域によって違いはあるのか、またリスク選好や時間割引率が相手の有無とどう関係しているのかを新たなアンケート調査によって明らかにすることを本研究の目的とする。

1.3 仮説

上記の目的のために、本研究では以下の仮説を検証する。

仮説1. 交際相手がいる人といない人で理想の相手に違いがある。

交際相手がいらない人は、理想が高い、もしくは多くのことを相手に求めすぎている可能性がある。一方で、交際相手がいる人は、相手に求めるものが少なく、結果的に出会う可能性が広がっているのではないか。

仮説2. 兄弟・姉妹の有無によって理想の相手に違いがある。

兄弟姉妹に交際相手や結婚している人がいれば、交際や結婚を身近に感じることができる。想像ではなく、実際の異性や交際について知ることができるため、高すぎる理想を持ったり多くのことを求めたりしないのではないか。

仮説3. 時間割引率やリスク選好は、交際相手の有無に関係がある。

リスク愛好家は、リスクを好む人であり、恋愛に対してもリスクを恐れることなく行動できるため、交際相手がいるのではないだろうか。反対にリスク回避的な人は、リスクを嫌うため交際相手がいらない人が多いのではないかと。

仮説4. 理想の相手は、地域によって違いがある。

前述のように地域によって性格に違いがあるため、理想の相手は変わるのではないだろうか。

仮説5. 恋人がいる人は、交際相手への理想と実際の交際相手の評価に差がない。

交際相手がいる人は、理想に近い相手に出会えたから交際しているはずであり、相手に重視する項目について、交際相手を高く評価するはずである。

2. 調査および分析方法

2.1 調査概要

西村[3]と疋田[4]を参考にアンケートを作成し、主に以下の項目を質問した。

- (1) 交際相手の有無: 交際相手がいるかいないか。
- (2) 家族構成: 兄弟姉妹の有無や1番年上の兄弟姉妹との年齢差。
- (3) 交際相手の印象: 交際相手がいる場合には相手の「性格、容姿、職業、経済力、価値観」について「とても良い」から「とても悪い」までの5段階で評価してもらった。
- (4) 付き合う場合の理想: 付き合う相手の年齢を年上、同年、年下、問わない、の4つから選択してもらった(疋田[4]を参照)。また、付き合う相手に求める条件として「性格、容姿、職業、経済力、価値観、学歴」から上位3つを回答してもらった。加えて、「喫煙、飲酒、浮気、金遣いが荒い、子供が嫌い、価値観が違う、嘘をつく」から付き合う相手に許せない習慣と許容できる習慣を1位から3位まで順位を付けてもらった。
- (5) 時間割引率、リスクを好むか: どちらも西村[3]を参考にした。時間割引率は、「今日1万円もらう」か「1ヶ月後にいくらもらう」のどちらかを選べるとき、最低いくらもらえれば1ヶ月を選ぶ(1ヶ月待つ)のかを自由に記述してもらった。リスクを好むかは、旅行のために乗る電車の指定席切符を予約しているとき、電車の出発時刻の何分前に駅に着くようにするかを自由記述で回答してもらった。これらは先行研究でよく用いられている方法で、この研究もそれに従う。

2.2 調査対象及び方法

会津大学短期大学部に通う学生を対象にGoogle formにてアンケート調査を実施した。152名からの回

答があり、そのうち女子学生からの回答が78.3%を占めた。短大生の特性上、女性が主な回答者となった。調査の詳細は以下の通りである。

期間: 2023年10月10日～11月30日

対象: 会津大学短期大学部に通う学生

方法: web上アンケート調査

内容: 交際相手の有無や交際相手への理想に関するアンケート

回答者数: 152名(有効回答数: 148名)

2.3 分析方法

各仮説を以下のように検証する。仮説1では付き合うに相手に求める条件を交際相手の有無によって比較する。仮説2では、付き合う相手に求める条件を兄弟姉妹の有無によって比較する。仮説3は、時間割引率やリスク選好を交際相手の有無によって比較する。仮説4では、付き合う場合に相手に求める条件について、疋田[3]の結果と今回の調査結果を比較する。仮説5では、交際相手がいる人を対象に、交際相手に求める条件に関して、実際の交際相手をどう評価しているのか分析する(例えば、交際相手の1番重視する条件として容姿を挙げているならば、交際相手の容姿を高く評価するはずである)。

3. 結果

3.1 交際相手の有無の理想の違い

付き合う場合の条件について交際相手の有無によって比較した。なお、交際相手がいる人は44人、いない人は105人である。また、回答者全体の59%が付き合う場合の理想のイメージを持っていた。

図 1は、付き合う相手に最も重視する条件についての回答である。交際相手がいらない人では、「性格」が最も多く、次いで「価値観」、「容姿」、「経済力」の順であった。これらの項目は、交際相手がいる人でも最も多かった。交際相手がいらない人のみで「経済力」の回答が見られた割合は1.6%と低い。それ以外の項目では交際相手の有無によって違いはなかった。

付き合う場合に許せない習慣について、1位として挙げた回答を示したものが図 2である。交際相手がいらない人は「浮気」が最も回答が多く、次いで「嘘をつく」、「金遣いが荒い」、「喫煙」、「価値観が違う」の順になった。交際相手がいる人でも1位は「浮気」で、次いで「価値観が違う」、「喫煙」、「金遣いが荒い」、「子供嫌い」、「嘘をつく」の順になった。交際相手がいる人では、子供が嫌いを許せない人が6.9%いた。しかし、それ以外に両者が挙げた項目に大きな違いは見られなかった。

付き合う場合に許容できる習慣について、1位として挙げた回答を示したものが図 3である。交際相手がいらない人は、「飲酒」が最も回答が多く、次いで「子供が嫌い」、「価値観が違う」、「喫煙」、「金遣い

が荒い」、「嘘をつく」の順になった。交際相手がいる人でも1位は「飲酒」で、次いで「子供が嫌い」、「浮気」、「価値観が違う」、「喫煙」の順になった。交際相手がいない人では、「金遣いが荒い」、「嘘をつく」を許容できる人が1.6%いた。交際相手がいる人では、浮気を許容できる人が6.9%いた。しかし、それ以外に両者が挙げた項目に大きな違いは見られなかった。

以上より、交際相手の有無によって、回答に多少の違いはあったものの、最も多くの回答を集めた項目に違いはなかった。交際相手の有無によって、理想の相手に求めるものが違うと判断できるほど大きな違いは見られなかった。

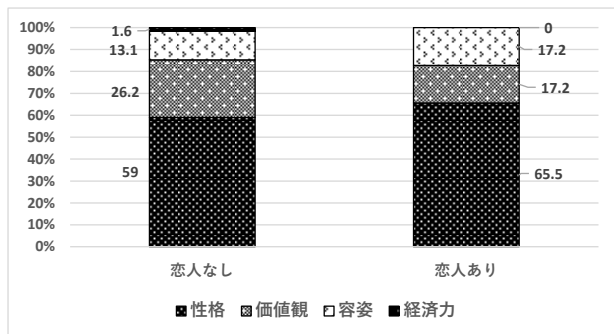


図 1 重視する条件

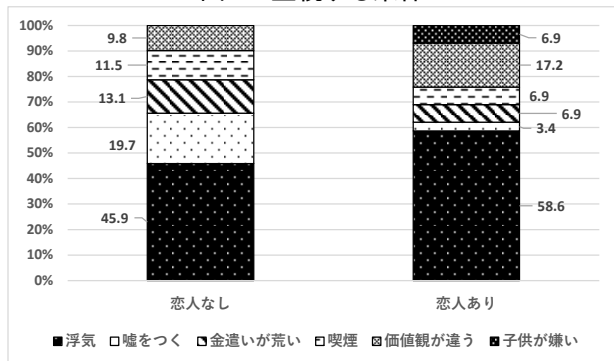


図 2 許せない習慣

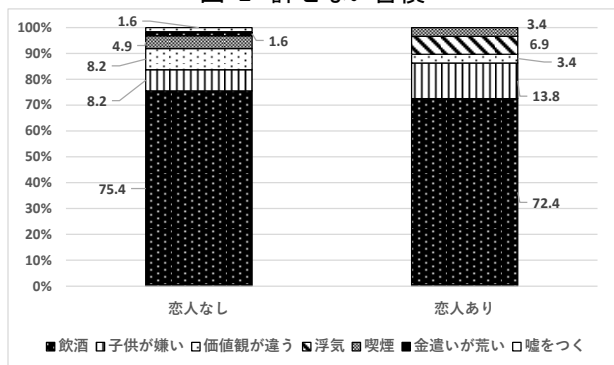


図 3 許容できる習慣

3.2 兄弟・姉妹による理想の違い

兄弟姉妹の有無によって重視する条件、許せない、許容できる習慣に違いがあるのか比較した。自分より年上、年下の兄弟がいるかだけでなく、同性なのか異性なのかも理想に影響を与えていると考えられ

る。

しかし、重視する条件や許せない習慣、許容できる習慣については全て仮説1の結果と大きな違いがなかった。相手に求める条件について、兄弟の有無による違いは見られなかった。

3.3 経済的選好は交際相手の有無と関係があるか

時間割引率については、前述の通り、今日1万円もらうか1ヶ月後にいくらかもらうかのどちらかを選ぶとき、最低いくもらえれば1ヶ月我慢できるか尋ねた。その上で、もらえる最低金額である1万円を我慢できる金額で割る。例えば、我慢できる金額が10万円であれば、1万円÷10万円で0.1になる。こうして算出した数値の平均は0.5であり、数値が0.5以上の人を「待てる人」、0.5より低い人を「待てない人」と区分した。また、リスクを好むかどうかは、西村[3]と同様に回答が10分未満の人をリスク愛好家とした。

表 1は、時間割引率の数値が0.5以上の人(待てる人)の割合とリスク選好の数値が10分未満(リスク愛好的)な人の割合を交際相手の有無によって示している。

交際相手がいる人では、待てる人の割合が低く、リスク愛好的な人の割合が高い。一方、交際相手がいない人では、待てる人の割合が高く、リスク愛好的な人の割合は低い。交際相手がいる人は、待てない人でリスク愛好家が多く、交際相手がいない人は、待てる人でリスク愛好家ではないことが分かった。

表 1 交際相手の有無による経済的選好の違い

| | 待てる人 (%) | リスク愛好家 (%) | サンプルサイズ(人) |
|------|----------|------------|------------|
| 恋人あり | 45.5 | 70.5 | 44 |
| 恋人なし | 60 | 37.1 | 105 |

3.4 地域による交際相手への理想の違い

付き合う場合の相手に求める条件について疋田[4]の研究結果と比較した。付き合う場合の重視する条件は地域による違いは見られなかったが、年齢については地域による違いが見られた。図 4は付き合う場合の相手の年齢の理想についての回答である。

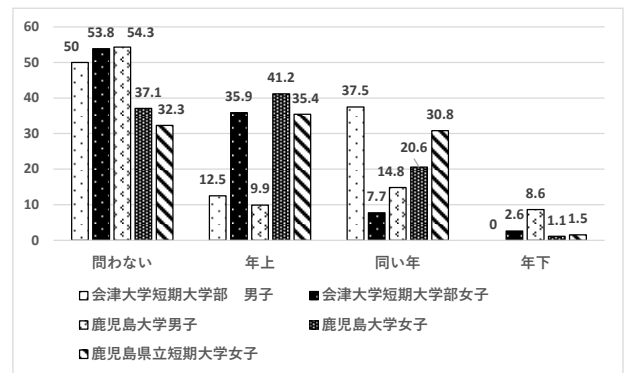


図 4 付き合う場合の条件 年齢

出典: 疋田 (2008) および本研究の結果より筆者作成
 会津大学短期大学の女子生徒は問わないという回答が53.8%だが、鹿児島大学の女子生徒は37.1%鹿児島県立短期大学は32.3%である。鹿児島県の女子生徒は、交際相手への年齢に年上か同い年と理想があることが分かった。

しかし、年齢以外の項目では、大きな地域差は見られなかった。

3.5 交際相手がいる人は理想と現実の差が小さい

交際相手がいる人のみを対象に、交際相手に求める条件とその項目についての交際相手への評価を比較した。交際相手に1番重視する条件は、仮説1の結果の通り、「性格」、「容姿」、「価値観」が1~3位であった。なお、1番重視する条件として性格を挙げた人が19人、容姿、価値観はそれぞれ5人であった。表 2は、これらの項目についての交際相手への評価である(とても良いを5とする5段階)。

1番重視する条件として性格を挙げた人で、相手の性格を悪い、とても悪いと回答した人はいなかった。容姿、価値観に関しても同様である。このことから、1番重視する条件に当てはまる人と交際しており、交際相手への理想と現実の交際相手への評価に差はない。

表 2 重視する条件 1 位と交際相手への評価

| | 性格 | 容姿 | 価値観 |
|-------------|------|----|-----|
| とても良い (%) | 52.6 | 80 | 0 |
| 良い (%) | 42.1 | 20 | 60 |
| 普通 (%) | 5.3 | 0 | 40 |
| 悪い (%) | 0 | 0 | 0 |
| とても悪い (%) | 0 | 0 | 0 |
| 該当せず (%) | 0 | 0 | 0 |
| サンプルサイズ (人) | 19 | 5 | 5 |

交際相手に2番目に重視する条件は、「価値観」、「性格」、「容姿」、「経済力」、「職業」であった。価値観を挙げた人は13人、性格は8人、容姿が5人、経済力が2人、職業が1人であった。

表 3は、これらの項目についての交際相手への評価である。

2番目に重視する条件として性格を挙げた人で、悪い、とても悪いという回答が見られた。これは価値観が違う、容姿、経済力に関しても同様である。職業に関しては相手が学生であり該当せずのみの回答であった。交際相手の評価は悪い、とても悪いが増加している。

以上より、1番重視する条件は理想と交際相手の評価に差がないが、次に重視する条件では理想と交際相手への評価に差が見られ、妥協している可能性が示された。こうした傾向は、3番目に重視する条件

でも強くみられる。

表 3 重視する条件 2 位と交際相手への評価

| | 価値観 | 性格 | 容姿 | 経済力 | 職業 |
|-------------|------|------|----|-----|-----|
| とても良い (%) | 30.8 | 37.5 | 60 | 0 | 0 |
| 良い (%) | 23.1 | 50 | 0 | 50 | 0 |
| 普通 (%) | 15.4 | 0 | 40 | 0 | 0 |
| 悪い (%) | 23.1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| とても悪い (%) | 7.7 | 12.5 | 0 | 50 | 0 |
| 該当せず (%) | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 |
| サンプルサイズ (人) | 13 | 8 | 5 | 2 | 1 |

4. 考察および結論

今回の調査では、恋愛対象に求める条件についてアンケート調査から検討した。交際相手の有無や兄弟の有無によって、相手に求める条件に大きな違いは見られなかった。また、地域による大きな違いも見られなかった。一方で、経済的選好が交際相手の有無と関係している可能性や、交際相手がいる人は最も相手に求める条件については妥協しないが、それ以外の条件では妥協している可能性が示された。

以上の結果から、未婚率の解消のために、付き合う前から相手に多くのことを求めすぎないことが重要であると考えられる。付き合う場合の理想と一致する完璧な人を待つのではなく、絶対に譲れない点を絞り、それ以外は妥協することも大切なのではないだろうか。このようなことを各自治体が行っている結婚支援で伝えたりセミナーを行ったりすると良いと考える。また、交際相手がいる人はリスク愛好家であったことから、恋愛についてリスクをとることの重要性(相手に声をかけるなど)も伝えると良いと考える。実際に福島県の結婚支援では、自分磨きセミナーとして自己表現力アップを目指すセミナーが行われているが、内容をトーク術以外にも心構えなど交際相手がいらない人に寄り添ったセミナーを増やしていくことや、大々的に広告を行ったりすることが大切なのではないだろうか。

参考文献

- [1] 内閣府男女共同参画局,結婚と家族をめぐる基礎データ
<https://www.gender.go.jp/kaigi/kento/Marriage-Family/8th/pdf/1.pdf>,2022年,(参照 2024-2-4)
- [2] 内閣府,少子化問題について,
https://www5.cao.go.jp/keizaishimon/kaigi/special/future/0224/shiryou_03.pdf,
 2014年2月24日,(参照 2024-2-4)
- [3] 西村智,未婚者の恋愛行動分析 なぜ適当な相手にめぐり合わないのか,経済学論究,第68巻第3号,P493-515,2014年
- [4] 疋田京子,大学生の恋愛観・結婚観に関する意識調査,鹿児島県立短期大学紀要,第59号,P107-124,2008年
- [5] ソニー生命保険株式会社,47都道府県別 生活意識調査 2018-19版(生活・家族編),
https://www.sonylife.co.jp/company/news/30/nr_181225.html#sec11,2018-12-25(参照 2024-2-4)